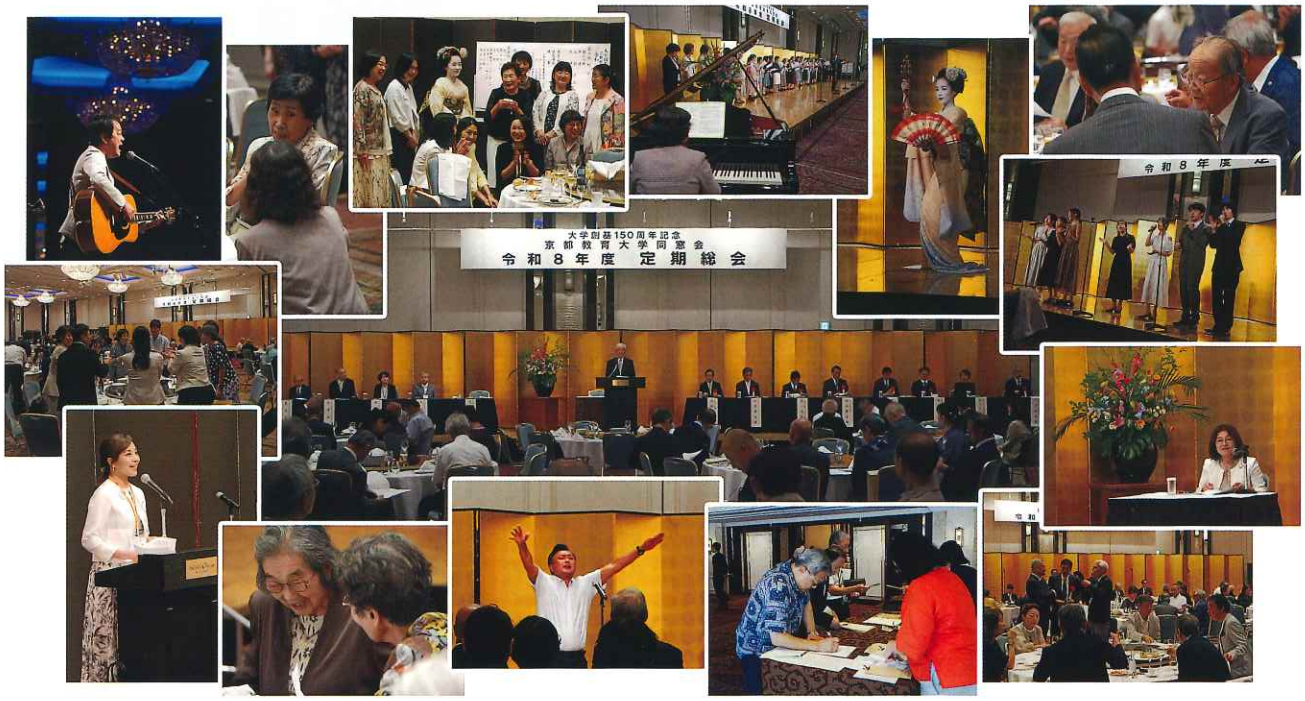
発　行
京都教育大学同窓会
発行責任者
会長　大越房数

京都教育大学 同窓会だより

事　務　局
〒612-8522
京都市伏見区深草藤森町1
京都教育大学内
TEL
FAX　075-644-8353
メールアドレス
dosokai@kyokyo-u.ac.jp



感謝

京都教育大学同窓会会長　大越房数



記念すべき第一〇〇号の同窓会だよりを発行することができました。昭和三七年に第一号を発行して以来、担当していただいた理事の努力、情報や記事を提供してくださった方の協力、そして何より、読むのを楽しみにしていただいている会員の皆様があってのことだと、感謝申し上げます。今後も充実した誌面となるよう、ご協力お願いします。

さて、今年度の総会・交流会は、大学創基一五〇周年を祝い、大学を元気づけることを目的として開催しました。総会には、京都府知事様、京都市長様、京都教育大学学長様をはじめ、多くのご来賓の方々、そして、二〇〇名を超える会員の皆様に参加いただき、盛大に行うことができました。総会が終了するや否や、「元気か」「どうしてんの」「なつかしいな」などの声が、あちこちで交わされ、司会者の声が聞き取れないような状態になりました。交流会では、岸田敏志さん、大学生のアカペラサークルのミニコンサートなどがあり、楽しいひと時となりました。本学で青春時代を過ごしたというつながりだけの同窓生が、そのつながりを大切にして集い、楽しいひと時を過ごせることに「感謝」です。当日参加してくださった方はもちろん、都合で参加できなかった皆様にも「感謝」申し上げます。

総会では、同窓会の財政の健全化を図るため、来年度からの会費の値上げを提案し、了承を得ました。皆様には、ご負担をお掛けしますが、ご理解、ご協力をお願いいたします。

今号の内容

①　会長挨拶
②～③　定期総会
④　予算・決算・会費
⑤　組織・事業計画
⑥～⑦　キャンパスライフ
事務局移転
⑧～⑨　創る
⑩　京教大市民合唱団
アートフォーラム
⑪　学び舎
紫郊体育会の活動
⑫　頑張ってます
⑬　一〇〇号記念特集
⑭～⑮　行事・編集後記
⑯

◆ ホームカミングデー2026　令和8年11月15日（日）10:00～14:00　詳しくは16ページ ◆

令和８年度　京都教育大学同窓会　本部組織

理事	役員	会長		大越　房数	４委員会		
		副会長		阪田　忠司	広報委員会・会員委員会		
		副会長		深尾　清美	組織委員会・会員委員会		
		運営委員長		齊藤　敦彦	財務委員会・会員委員会		
		運営委員長補佐		安居　昌行			
	委員会	組織委員会	長	安居　昌行	広報委員会	長	中東　朋子
			副	沖田　悟傳		副	走井　徳彦
				篁　嘉朗			飯田　一輝
				林　明宏			國重　初美
				森谷　年裕			榊原　禎宏
				山下　和美			津知　隆一
		会員委員会	長	村田眞里子			中村　薫
			副	奈良　昌幸		HP	吉川　和秀
			副	渡邊　聡			綿越　貴久
				市田　克利	財務委員会	長	長者　善高
				岩場　利知		副	山本　誠三
				佐原　裕子	事務局	長	齊藤　敦彦
				民岡　薫		副	永原　隆博
				豊田寿美夫			
				門田　真澄			
				安田　睦美	特別参与		青木　義照

会計監査	増山　亨	若松　秀一
協力者	植松　廸夫	藤田　加代
	上原　文子	増山　忠雄
	谷口　博志	三宅　康夫
特別顧問	原田　宗彦	学長
	丸山　克彦	事務局長･副学長
	井上えり子	理事・副学長
	竺沙　知章	副学長
顧問	林　伊織	橋本　康二
	髙西喜久子	廣瀬　賢二
	林　弘子	宗村　隆生
	辻　迪夫	瀧口　宣男
	杉本　弘子	穂積　豊
	牧野　修	髙向　健次

※敬称略・五十音順（特別顧問、顧問は歴代順）
HP：ホームページ担当

令和８年度　事業計画

1　定期総会　令和８年７月12日（日）
於　ホテルオークラ京都

2　本同窓会の課題
同窓会の活性化を図る
（1）組織機能の充実
（2）会員増を図る
（3）財政の安定化と事業の充実
（4）入学時入会制に伴う会員定着化
（5）大学との連携の充実
（大学創基150周年事業等）

3　委員会活動
（1）組織委員会
①組織機能の充実
○支部長会並びに幹事会の開催［6.13（土）］
②会員増を図る
○同窓会活動の状況発信と「入会届」の改善、会費入金方法の多様化・簡素化による入会促進
○「1-2運動」及び各種同窓会の会合における入会の呼びかけ
③入学時入会制に伴う会員定着化
（2）会員委員会
①新規事業「ホームカミングデー」の立上げ
②専攻代表（任期2年）の選出（継続もあり）
③専攻代表者会の運営
④第15回「あったかトークショップ」の開催
⑤大学（学生課・教務課・学科主任等）組織委員会との連携・調整
⑥「第27回写真展」
R8.11.13（金）～15（日）〈藤陵祭中〉
⑦「第13回いいとも講演会」
R8.11.14（土）13：30～15：00〈藤陵祭中〉
⑧第60回囲碁大会（囲碁道場）
R8.11.15（日）9：30～16：00〈藤陵祭中〉
（3）広報委員会
①「同窓会だより」99号（R8.4.15）・100号（R8.10.15）101号（R9.3.20）の発行
②ホームページの運用と周知
（4）財務委員会
①財政安定化に向けて
○会費収入確保に向けての取組
・合格者の入学時入会の促進
・10年１万円会員の一般会員（10年経過後）に移行後の会員納入の働きかけ推進
○寄付金受入れ等、他の収入取組の推進
○支出の精選（事務管理費の削減等）
②大学、学生への支援
○同窓会奨学金、大学祭補助、新入生歓迎会補助、卒業記念品
③支部事業への財政的援助
○活動に対する補助金

4　事務局の主たる業務
（1）会員名簿の作成・管理
（2）同窓会費の集金
（3）同窓会だよりの発送
（4）各種会議招集のための諸準備
（5）支部等との連携
（6）全国各地の同窓会員との連携
（7）学生会員等との各種連絡調整

令和８年度　会計予算計画

	科目		予算額(円)	備考
収入の部	前年度繰越金		246,798	
	会費		6,968,000	一般会員、学生会員
	寄付金		0	
	雑収入		1,500	利息
	積立金		800,000	
	計		8,016,298	
支出の部	事業費	行事等経費	90,000	委員会行事
		大学関連費	30,000	大学との共催事業
		学生支援事業費	1,000,000	支援事業
		会議費	405,000	総会費、諸会議費
		会報発行費	990,000	会報印刷・発送費
		通信運搬費	700,000	文書送付・振込手数料
		支部事業補助費	153,000	支部への補助
	管理費	事務局管理費	2,000,000	
		賃貸料	490,000	印刷機等リース代
		印刷費	140,000	コピー使用料･インク代等
		消耗品費	88,000	事務用品等
		名簿管理費	65,000	データ入力
		備品関係費	28,000	事務機器
		雑費	8,000	日用品、渉外費等
	卒業後運営基金		1,800,000	令和８年度学生会員
	予備費		29,298	
	計		8,016,298	
収支差額			0	

令和７年度　会計決算報告

	科目		予算額(円)	備考
収入の部	前年度繰越金		436,749	
	会費		7,132,400	一般会員、学生会員
	寄付金		0	
	雑収入		1,523	利息
	積立金		500,000	
	計		8,070,672	
支出の部	事業費	行事等経費	71,379	委員会行事
		大学関連費	16,000	大学との共催事業
		学生支援事業費	928,350	支援事業
		会議費	327,289	総会費、諸会議費
		会報発行費	954,700	会報印刷・発送費
		通信運搬費	665,158	文書送付・振込手数料
		支部事業補助費	121,980	支部への補助
	管理費	事務局管理費	2,000,075	
		賃貸料	430,320	印刷機等リース代
		印刷費	139,761	コピー使用料･インク代等
		消耗品費	82,045	用紙・封筒他
		名簿管理費	60,995	データ入力
		備品関係費	23,958	ハードディスク等
		雑費	6,464	日用品、文房具等
	卒業後運営基金		1,872,000	令和7年度学生会員
	予備費		123,400	事務局引継ぎ経費･旅費
	計		7,823,874	
収支差額			246,798	

財政状況の健全化にご理解・ご協力を！

もとより、同窓会の活動は会員の皆様の会費と寄付金で成り立っています。しかし、ここ数年の会費納入者の減少や郵送料金の値上げをはじめとする諸物価の高騰により財政がひっ迫し、同窓会といたしましては最大限の努力をしてまいりましたが、ついに昨年度は赤字となり、積立金で補うという事態になりました。今後は活動を縮小するという選択肢もありますが、会員の皆様の期待に応えるべく、従来の取組の維持・発展へ進ませていただきたいと考えています。

つきましては、この事態を打破するため、今後も支出の見直しを徹底するとともに、令和９年度より

・会費値上げ　２０００円　→　３０００円（家族会員：１０００円→２０００円）

・入学時入会費値上げ　１万円<10年>　→　２万円<10年>

に踏み切らせていただきたく存じます。ご負担をお掛けしますが、何卒、ご理解ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

また、３年後に同窓会創設１２０周年<2029年>を迎えるとともに、ますますの学生会員への支援や事業・事務局機能のさらなる充実に向け、幅広く寄付金を募る取組も進めています。併せてご協力よろしくお願いいたします。

京都銀行　墨染支店（店番１９４）　普通口座　口座番号４１９２４４５

京都教育大学同窓会寄付金　会計　永原　隆博

寄付をいただく際や問い合わせは、京都教育大学同窓会事務局（０７５－６４４－８３５３）にご連絡ください。

キャンパスライフ

同窓会総会に参加して

技術領域専攻四回生　有本　帆伽

このたび、ホテルオークラ京都にて開催されました創基一五〇周年記念同窓会総会・交流会に参加させていただきました。当日は、京都府知事をはじめ、京都市長、京都府ならびに京都市の教育長の皆様とご挨拶をさせていただく大変貴重な機会をいただきました。また、学生という立場で緊張もありましたが、同窓会役員の皆様に温かく迎えていただき、多くのご配慮やご支援をいただきながら、開催に向けてお手伝いをさせていただくことができました。

会場は総会にふさわしい厳かな雰囲気に包まれていましたが、その一方で、交流会では世代や立場を超えて気軽に交流できる和やかな空気もあり、多くの立場の方々とお話をする機会をいただきました。学生生活ではなかなか得ることのできない経験であり、改めて同窓会のつながりの大切さや、その温かさを実感する一日となりました。

今回このような貴重な機会をいただき、多くの学びと出会いに恵まれました。今回の経験を通して、卒業後も大学とのつながりを大切にしながら、自分自身も将来は後輩や大学に貢献できる卒業生になれるよう努めてまいりたいと思います。

来春には卒業を迎えますが、専攻代表として今年度の「あったかトークショップ」に向けて励んでいきたいと思います。



事務局が移転しました

大学のご理解により、下図に移転いたしました。

Ａ棟１階　　Ａ１１１　事務室　　Ａ１１０　同窓会室

正門を入り、一筋目を左に入ったところがＡ棟です。左に入らずに直進し、Ａ棟東端２階からエレベーターで１階に降りるのが最短かもしれません。

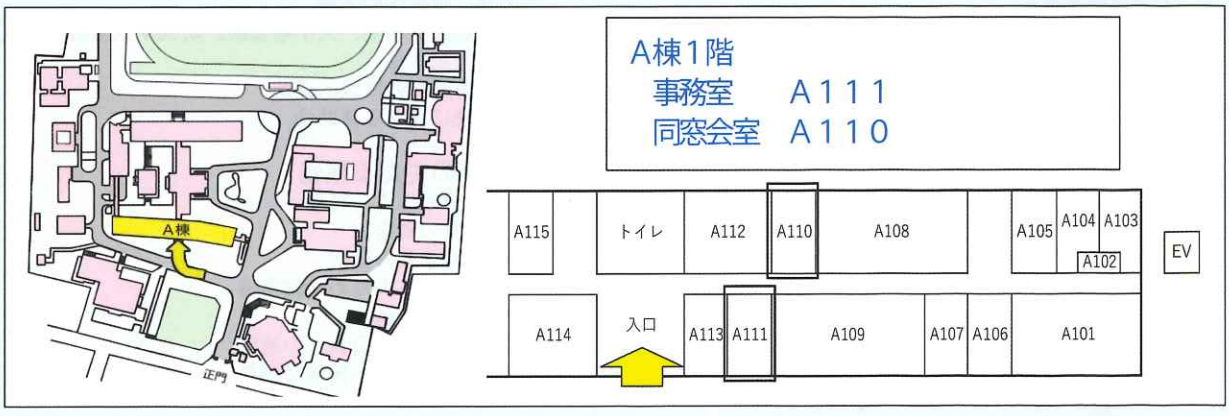
新事務局は正門より２分、ＪＲ藤森駅から５分の近さです。少し広くなりました。

ホームカミングデー（11／15）等、大学にお越しの際はお気軽にお立ち寄りください。

同窓会室は旧事務局の会議室と同様に会議等、多目的に活用していただけます。

土日や夜の利用は、事前に連絡いただきますようお願いいたします。

※ 事務局・平日（火曜日を除く）10時～16時　　TEL・FAX ０７５－６４４－８３５３



キャンパスライフ

硬式テニスサークルCANDY

数学領域専攻三回生　中井　裕貴

硬式テニスサークルであるＣＡＮＤＹは、テニスが好きな人やおしゃべりするのが好きな人達が集まり、日々楽しく活動している団体であり、八七人が在籍しています。テニス初心者から経験者がいたりソフトテニスの経験者がいたりとさまざまなメンバーが在籍しており、テニスの上手い下手関係なく行っています。

活動は週に二回木曜日と日曜日に行っており、イベントは月一回行っています。イベントはその季節に合わせた、ハロウィンイベントやクリスマスイベントなど楽しい企画をしています。最近は夏ということで琵琶湖にビーチイベントとして行き、キックベースや水鉄砲で遊びました。また合宿は春合宿と夏合宿と二回行っています。春はテニスができず体育館でレクリエーションを行うため、普段あまり活動に来ていない人やテニスが苦手な人も楽しく参加しています。夏はテニスのトーナメントやテニスを交えた企画など、テニスを、ガチで、楽しく行っています。

ＣＡＮＤＹは今年で四三年目なのですが愛されている理由としてフランクさがあると思います。来たい時にきてテニスのうまさ関係なくみんなが楽しめる雰囲気があり、先輩後輩が一緒に楽しめる空間があります。そんなアットホームな雰囲気でこれからの活動も楽しく行っていきたいと思います。



女子ハンドボール部

体育領域専攻三回生　佐藤　楓夏

京都教育大学女子ハンドボール部は、現在一一名で活動しています。部員数は決して多くはありませんが、その分、学年を越えて仲が良く、互いに声を掛け合い、支え合いながら日々の練習に励んでいます。

練習は月曜日・水曜日・金曜日に二時間、土日はどちらか一日に二時間半行っています。また、京都府内に限らず他府県のさまざまなチームとの練習試合や合同練習、合宿にも積極的に参加し、多くの経験を積みながら競技力の向上に努めています。

本部は関西学生ハンドボール連盟二部に所属しており、二〇二五年度リーグ戦では二部三位という結果を収めることができました。現在は一部昇格を目標に掲げ、技術力の向上はもちろん、チームとしての結束力を高めながら練習に取り組んでいます。

また、私たちはハンドボールの技術を磨くだけでなく、競技を通してさまざまな方々と交流し、多くの経験を積むことで、人間性をより豊かに育むことも大切にしています。一人一人が主体的に考え、仲間と切磋琢磨しながら成長できる環境づくりを心掛けています。

日頃より温かいご支援、ご声援をいただいております同窓会の皆様には、部員一同心より感謝申し上げます。皆様のご期待に応えられるよう、一部昇格を目指してチーム一丸となって努力を重ねてまいります。今後とも変わらぬご支援、ご声援のほど、よろしくお願いいたします。



学び舎

大学での学び
「当たり前を疑う」ことから始まる協働の学び

京都教育大学教職キャリア高度化センター特任教授　西山　由美



みなさん、こんにちは。実務家教員として今年で三年目を迎えました西山由美です。私は現在、学部や大学院での授業を担当するとともに、「京都府北部創生支援事業」の担当として、研究者教員の先生と一緒に学校現場へ出向く日々を送っています。今回は、教職大学院での学びの一端をご紹介させていただきます。

「学校づくりと学校経営C」を、研究者教員の榊原禎宏先生、実務家教員の小長谷直樹先生とともに担当しています。本授業は、学校経営の理念や制度、実態に関わる基礎的な理解を深めるとともに、院生自身がこれまでに培ってきた学校観、教育観、あるいは児童生徒観をよい意味で揺さぶり、恒常的な更新につなげるための「学校教育を批判的に考察・分析する力量の基礎」を築くことに主眼を置いています。

そのため、根底にあるのは、「当たり前を疑う」「もやもや感から深く考察する」という姿勢です。毎回の授業で投げかけられる問いはどれも深いものばかりで、院生は思考を揺さぶられながら考え続けます。そして、現場経験を持つ「現職教員院生」と、大学を卒業したばかりの「学部新卒院生」が意見を交流させます。ある時は難しいテーマを前に熟考し、またある時は多様な視点がぶつかり合って議論の声が教室に響き渡るなど、毎時間、それぞれに個性があり、味わい深い光景が広がっています。

ここで、授業を受けた院生の学びの声を少しご紹介します（一部抜粋、要約）。

「学校経営とは単に仕事を割り振るだけでなく、限られた人的資源の中で教職員の負担や専門性を考慮し、組織全体が円滑に機能するよう調整していくことが重要だと学んだ。将来教員として働く際は、授業だけでなく学校全体を支える視点を持ち、同僚と協力しながら運営に携わりたい。（学部新卒院生）」

「学校は危険だらけである。天変地異や不審者侵入等考えればきりがない。まずは危険の発生を可能な限り防ぐリスクマネジメントが欠かせない。危険事象やヒヤリハット経験の原因の共有化を行い、あらゆる危険リスクを知って回避することが重要である。自分自身、誰かに一つひとつ教えてもらったわけではなく、『これは危ないな』と経験からの感覚で予測し、大きなヒヤリハットから些細なものまで数多く回避してきたことに気付いた。本来、危機回避は個人の経験といったあやふやなもののみに頼るのではなく、データ化し共有されるべきであると感じた。（現職教員院生）」

長年学校現場に身を置いてきた者として、このように物事の見方や考え方を根本から深め合える環境をとてもうらやましく感じます。同時に、こうした質の高い学びを経て現場に赴く学部新卒院生や、実践を問い直した現職教員院生は、学校現場にとって、頼もしい存在になるに違いないと確信しています。変化が激しく、予測困難な社会を「しなやかに生きる」ための学びが育まれています。



頑張ってます

人との出会い



平成23年
英語領域専攻卒

梅原　みなみ

教師になり、これまで多くの先生方や子どもたちと出会ってきました。私は「一期一会」という言葉が好きです。日本には何億人もの人がいる中で、出会うべくして出会ったこの縁を大切にしたいと考えながら日々を過ごしています。

先輩の先生方からは、授業づくりはもちろん、学校生活における子どもたちとの関わり方について多くを学びました。子どもたちの「なぜ」「知りたい」を引き出す問いかけや、子どもたち自身が創り上げ、つないでいく授業など、主体的に学ぶ姿を育てる実践を教えていただきました。また、子どもの思いに寄り添うこと、軸をもって指導することの大切さも学びました。うまくいかないときや悩んだときには親身に相談に乗り、助言をくださるなど、「人を大切にする」先生方に多く出会えたことは、私にとって大きな財産です。

そして、子どもたちからも日々多くのことを学んでいます。面白いと感じたことをとことん追求する姿、分かったときのうれしそうな表情、挑戦し達成したときの喜び。それらに触れるたび、子どもたちは無限の可能性を秘めていると実感します。また、どれだけ経験を重ねても、子どもの数だけ考え方や関わり方が異なることを改めて感じさせられます。

人との出会いは偶然のようでありながら、どこか必然であるようにも思えます。その一つひとつが、その時の自分に必要な出会いだったのだと感じています。人は他者との関わりの中で成長していくものです。これからも「人との出会い」を大切にしながら、日々成長を続けていきたいと思います。

（舞鶴市立倉梯小学校勤務）

共に学び、共に育つ



令和４年
幼児教育専攻卒

藤嶋　梨月

京都市立幼稚園に勤めて５年目を迎え、現在は年長児の担任として、子どもたちと生活や遊びを共にしながら、一人一人の成長に寄り添う毎日を送っています。

この仕事の魅力は、子どもたちの成長の瞬間に立ち会えることです。子どもたちにとって、幼稚園での生活は初めて出会う社会です。友達と関わる中で、思いがぶつかったり、悩んだり、喜びを分かち合ったりしながら、心も体も大きく成長していきます。毎日一緒に過ごしているからこそ、「できることが少しずつ増えていった」「相手の思いに気づき、思いやりのある言葉や関わりが見られるようになった」といった小さな変化を間近で感じることができます。その積み重ねが大きな成長へとつながっていく姿を見られることに、大きなやりがいを感じています。

公立幼稚園では、子どもたちが遊びを通して心と体を十分に動かし、さまざまな学びを得ています。子ども時代を子どもらしく過ごし、夢中になって遊ぶ経験が、これからの成長の土台になることを日々実感しています。

また、教師という立場で子どもたちを支えるだけでなく、一人の人間として向き合うことも大切にしています。子どもたちは何を考え、何を感じ、どうしたいと思っているのか。その思いに耳を傾け、同じ仲間として一緒に考え、受け止め、共に前へ進んでいける存在でありたいと思っています。これからも子どもたち一人一人の思いを大切にしながら、自分自身も学び続け、成長していきたいです。

（京都市立竹田幼稚園勤務）

「同窓会だより」第一〇〇号記念特集

▼第一号：新聞紙大白黒印刷で創刊される



▼第二五号：B５判となる



▼第五〇号：A４判となる



一九六二年
一九六六年
一九八八年
一九八九年
一九九五年
二〇〇一年

京都教育大学同窓会会報誌『同窓会だより』は、本号をもちまして第一〇〇号を発行することができました。同窓会の活動の様子や取組の紹介、同窓生の皆さんの近況やご活躍の様子、教育大学の現状や現役学生さんの声などの内容で、京都教育大学というご縁で結ばれた皆さんとの絆作りに少しでもお役にたっていれば幸甚です。そして何よりも、毎号毎号の紙面に貴重な原稿や作品をお寄せいただいた多くの同窓生の皆さんに感謝申し上げます。第一〇〇号の発行を機に、『同窓会だより』の歩みを振り返ってみたいと思います。

記念すべき第一号は、一九六二年（昭和三七年）五月一五日に『京都学芸大学同窓会だより』の名前で、新聞紙大の大きさで発行されています。当時の同窓会事務局は北区の紫明会館内にあり、安達致一郎同窓会会長の『総会のご通知』から紙面は始まっています。また石沢スミ氏の寄稿文『回顧と近況』には、「藤の森校舎にも毎年に女子の入学率が高くなり、今年は殆ど半数が女子学生で、学内でも小学校の教育は女子教員が主になる時代も、あまり遠くあるまいなどと話が出るまでに、（中略）大学発足当時は女子の入学率は二割にも満たず」といった当時を忍ばせる記述も見られます。

一九六六年（昭和四一年）、この年の四月から学校名が京都教育大学に改称されるのに伴い、一二月発行の第六号から同窓会報誌の名称も『京都教育大学同窓会だより』となりました。

一九八八年（昭和六三年）からは年二回の発行となり、装いもB５判一六ページに変更されました。この変更には、「（会員のための会報へ）読み易く、保存し易く、増頁、年二回発行、そして内容充実へ、会員の要望に沿えるように、会の活性化と教育の進展に役立つように」という文言が添えられています。

一九八九年（平成元年）の第二六号から『頑張ってます』の前身『頑張る人達』の掲載が始まりました。この企画では、教育現場を中心に社会に出て活躍しておられる卒業生の方々に頑張りを伝えてもらっています。

一九九五年（平成七年）の第三八号からは、同窓生の皆さんの美術・工芸・書・手芸等々の作品を紙面上で紹介する『創る』の掲載が始まりました。また、この年に起こった阪神淡路大震災で被災された同窓生の方々に同窓会からお見舞い状を送るとともに、その返信を元に消息を伝えています。



▼第五七号：一部カラー印刷となる



▼第六八号：ほぼ現行のレイアウトとなる



▼第一〇〇号：そして明日へ

二〇〇四年
二〇〇五年
二〇〇九年
二〇一〇年
二〇二一年
二〇二六年

『同窓会だより』が今のようにＡ４判となったのは、二〇〇一年（平成一三年）からです。「より読みやすく」「親しみやすく」「役に立つ」を期待されての変更でした。

紙面を華やかにするために色を入れたいという広報委員の思いが日の目を見たのは二〇〇四年（平成一六年）発行の第五七号でした。この号はまだ、単色の一部カラーといったものでしたが、翌二〇〇五年（平成一七年）発行の第五八号からは、フルカラー化が実現します。しかし、カラー化に伴い紙の質も変えたため重さが増し、送料がかさんでしまうという問題が生じ、対応に苦慮されたという話も残っています。

二〇〇九年（平成二一年）六月の定期総会で、法人としての京都教育大学同窓会は解散し、任意団体の組織として再出発しました。そして同窓会事務局も、長年親しんできた紫明会館から教育大学の構内へ移りました。『同窓会だより』では、二〇〇九年（平成二一年）一〇月発行の第六七号と二〇一〇年（平成二二年）四月発行の第六八号の二号に渡り、『なつかしの紫明会館』と題して、紫明会館の建物や部屋、そこでの活動の様子をカラー写真で振り返っています。さらに第六八号では、新たな活動の舞台となる教育大学のキャンパスをイラストや写真を使って紹介しています。そして「事務局、教育大学内」として発行されたこの第六八号が、現行の『同窓会だより』のレイアウトの出発点ともなっています。

二〇二一年（令和三年）、『同窓会だより』もコロナ禍の影響を受けざるを得ませんでした。十分な編集会議や取材活動を行うことができなかったため春号を発行することができず、秋号のみとなりました。

そして今年二〇二六年（令和八年）一〇月、一〇〇号目の『同窓会だより』の発行に至りました。奇しくも今年は大学の創基一五〇周年にも当たり、巻頭では、大学創基一五〇周年記念を冠した同窓会総会の様子を特集しています。

『同窓会だより』は一〇〇号に至るまでにいただいた同窓生読者の皆さんからの感想や励ましの声に支えられてきました。これからも同窓生の皆さんと同窓会との架け橋の役目を果たしていけるよう、よりよい紙面作りに取り組んでいきたいと思っています。

（記　編集委員　走井　徳彦）

来年度総会は七月十一日(日)ホテルオークラ京都

詳細は、三月下旬頃同窓会だよりとHPに掲載します。

新事業 ホームカミングデー2026

皆様の大学生活はいかがでしたか。「充実していた」「あっという間だった」「クラブ・サークル活動やバイトで忙しかった」「仲間とのおしゃべりが楽しかった」等々。もちろん、難しい講義やゼミでの討論、卒業論文の大変さもあったことでしょう。

それぞれの思い出が詰まった母校。木々の色づいた季節、藤陵祭（学園祭）で学生たちが生き生きと活動している構内に久々に足をお運びください。大学時代の記憶を辿りながら思い出の場所を訪ねられるもよし、同窓会の行事に参加していただくもよし。学生の行事を覗き、やりとりしていただくのも楽しいのではないでしょうか。普段はめったに見られない大学の様子をご堪能いただければと思います。

●日　時：11月15日(日) 10:00～14:00　※藤陵祭最終日
＜受付＞正門入口付近のテントで資料（構内地図等）や記念品をお受け取りください。

●内　容：
・自由に散策してお過ごしください。(案内を希望される方は受付でお申し出ください)
・12：30～14：00に講堂で開催します「ウェルカムセレモニー」と「マンドリンクラブOB･OGコンサート」には、ぜひお越しください。
・詳細は京教大ホームページや別紙「チラシ」をご覧ください。

＊同期のご友人やクラブ・サークルのお仲間等、お誘い合わせの上、多数のご参加をお待ちしております。

★藤陵祭期間中に開催する同窓会イベント★

●**第27回写真展**：11月13日(金)～15日(日) 10:00～16:00（最終日は14:00まで）
会場：図書館企画展示室

●**第13回いいとも講演会**：11月14日(土) 13:30～15:00　会場：A3講義室
＊申し込みは不要です。当日会場にお越しください。
講師：京都教育大学体育学科講師　坂部 崇政先生
演題：「実力を発揮する心の科学 ―スポーツ心理学を体験してみようー」
スポーツ心理学は、競技スポーツだけでなく、仕事や勉強、趣味など、様々な場面で力を発揮するための「こころの働き」を科学的に研究する学問です。本講座では、簡単な体験や実験を交えながら、「集中力」「緊張との付き合い方」「イメージの力」などを楽しく学びます。スポーツ経験の有無は問いません。どなたでも気軽にご参加いただける内容です。皆さまと一緒に体験しながら、スポーツ心理学の面白さや、日常生活にも役立つヒントをお伝えできればと思います。どうぞお気軽にご参加ください。

●**第60回囲碁大会（囲碁道場）**：11月15日(日) 9:30～16:00　会場：A2講義室

編集後記

七月一二日に行われた今年度の同窓会総会は、二〇〇名を超える大勢の参加者を得て、大学創基一五〇周年を祝うとともに旧交を温める場となりました。ちなみに「創基」とは、現在の組織の前身（起源）となる学校ができたときに用いられるとＡＩが教えてくれました。はて自分は、創基何年頃に在学していたのかしらと思われた方もおられるのではないでしょうか。

この創基一五〇周年記念の年、『同窓会だより』も第一〇〇号を発行することができました。一〇〇号までの歩みは特集記事として載せていますのでお目通しください。一口に一〇〇号と言っても足かけ六五年の星霜を経てきたことになります。本当に多くの方々の協力によって『同窓会だより』が成り立ってきたことを実感します。編集作業に携わるたびに、同窓生の方々のご活躍ぶりに励まされています。改めて感謝申し上げます。

反対に編集委員は毎回読んでくださる方の顔を思い浮かべながら作業をしています。なので、読んでもらった感想などを聞かせていただくことがあると、俄然アドレナリンが上がります。ＩＴ全盛の世の中ですが、紙媒体の『同窓会だより』でつながる、いや紙媒体だからこそつながり合える『同窓会だより』をこれからもお届けしていきたいと思いを新たにしています。

《編集委員》
中東　朋子　　走井　徳彦
飯田　一輝　　國重　初美
津知　隆一　　中村　薫
綿越　貴久